

2019年 12月7日(土) 会場：祥明大学(韓国)  
韓国日語教育学会・協働実践研究会(日本) 共同開催

『社会とつながる日本語教育 —協働学習の実践と研究—』

韓国祥明大学を会場として共同開催した研究発表大会は、韓国、日本、台湾、中国、ドイツの5カ国から306名の参加者が集まりました。

当日のプログラムは、午前に8つの会場において口頭発表が行われ、午後は大会場において学术交流協定締結の調印式があり、その後3つの講演が行われました。

韓国日語教育学会は、今年、設立20周年を迎えるにあたり、協働実践研究会(日本)との間に学术交流・協力に関する協定を締結することになり、韓国日語教育学会からは会長の検校裕朗会長が、協働実践研究会(日本)からは池田玲子が調印式に臨みました。その後、この協定を記念して協働実践研究会の池田玲子による講演「日本語教育の協働学習の広がり —アジアのグローバル化を背景として—」があり、つづいて台湾淡江大学の落合由治教授による「AI技術からみた日本語学、日本語教育研究の展望と課題 —日本語教育の繋がりと協働の新領域をめざして—」、中国吉林大学の周異夫教授による「中国大学の日本語人材育成 —専門能力と学術能力—」の講演がありました。



学术交流協定調印式後の記念撮影

午後の後半は、4つの会場で同時進行のかたちでパネルディスカッション企画がありました。協働実践研究会は、日本・台湾の企画と韓国の2つの企画が発表されました。日本・

台湾の企画のプログラムは下記のとおりです。

企劃Ⅰ：多文化共生社会のための協働実践の可能性				
場所：미래백년관(未来百年館)203				
時間	発表者	発表主題	討論者	司會者
16:00～ 18:00	近藤彩 (麗澤大)	日本語教育と企業の協働の可能性 －ケース学習を通じた多文化共生の道のり－	本多美保 (梨花女大)	角ゆりか (明知大)
	金孝卿 (早稲田大)	企業の多文化共生環境のためのケース学習 －対話による問題解決プロセスの意義－	蔡永姪 (空軍士官學校)	
	羅曉勤 (銘傳大)	台湾における日本語人材育成のための協働実践 －ケース教材作成の試み－	白以然 (高麗大)	
	トンプソン美恵子 (山梨学院大)	チームティーチングにおける協働的内省ワークショップの試み －タイ初中等教育の事例から－	若月祥子 (弘益大)	
	木村かおり (早稲田大)	マレーシアの教師(他者)の成長を自分たち教師で支える －ピア・カンファレンス(日本語教師仲間での授業検討会)の実践－	朱麗淑 (高麗大)	



パネル発表の様子（近藤彩）

指定討論者として韓国日本語教育学会から 5 名の先生方からはそれぞれの発表に対し、非常に貴重なコメントや質問をいただきました。

文責：池田玲子